



朝晩は寒さを感じるようになってきたものの、日中は20℃を超える陽気で、子どもたちは元気に運動場で遊んでいます。高学年の子たちは、ドッジボールやサッカーなどをして同じ学級、同じ学年のなかまと集団遊びをしている姿を見かけるようになりました。修学旅行や自然教室が終わり、学年としてのなかま意識が出てきているのでしょうか。少しずつさまざまな出来事を通して、子どもたちの成長が感じ取れます。

来週には本校の運動会（体育科の授業参観）が控えています。今年度は、感染症拡大防止の観点からきょうだい学年を中心に据えた運動会の実施となりました。これまでは、体力づくりに時間を費やしてきましたが、運動場には短距離走のためのコースラインを引き、子どもたちも少しずつ運動会に向けての意識が高まってきています。

現在は、四日市市においても感染症が随分と収束しているため、本来形式の運動会が開催されないことを残念に思われている保護者の方々もおみえだと思えます。本校としては、できる範囲の中で子どもたちのがんばっている姿を見ていただきたいと考えていますので、ご理解、ご了承をよろしく願います。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子をカラーで紹介しています。



5年生が自然教室に行ってきました。

11月4日（木）、5年生は四日市市少年自然の家へ自然教室に行ってきました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、宿泊を伴わない1日開催での実施となりました。入所式⇒火起こし体験⇒昼食調理（炊事場：昼食・片付け）⇒カヤック体験・マイ箸作り⇒退所式の順で活動してきました。今回はその一部を紹介したいと思います（裏面に続きます）。

<入所式>

朝から晴れ渡り、絶好の日和（ひより）となりました。バスで四日市市少年自然の家へと向かい、最初に入所式を行いました。桜台小の校歌に合わせて校旗の掲揚をし、所長さんからのあいさつ、校長からのあいさつ、5年生代表からのあいさつがありました。



「挑戦する心」「感動する心」「発見する心」の3つが、四日市市少年自然の家では活動するためのキーワードとなっています。校長からは、「この3つの心を意識して今回の活動が行えるように」と、話をしました。

代表委員の進行で入所式を終えると火起こし体験をするために炊事場へと向かいました。

<火起こし体験（1番目）>

古代から続く火起こし道具の「まいぎり」を使って火起こし体験をしました。麻ひもをほぐして板に押し付けつつ「まいぎり」を回転させました。板から外れないように「きゅっきゅっ」という音が出るように回し、先端から煙が出始め、火種ができたら素早く火口に移すのですが、なかなかうまくいかないグループが多かったです。



もう一つは、現代の火打ち石と呼ばれるファイヤースターターを使って火を起こす方法です。麻ひもをほぐし、摩擦による火花で火を起こすのですが、早いグループは3分ほどで火をおこすことができました。火を起こしたグループは、うちわであおいで燃え広がらせていましたが、灰をかぶったり煙が目に入ったりして大変な思いをしている子もいました。

<昼食調理（2番目）>

防災を意識してアルファ米の調理をしました。かまどを使うと洗うのに手間がかかるので、今回はカセットコンロを使い、やかんに水を入れて火にかけました。火起こしをしたかまどには水を入れたなべをかけ、各自が持ってきたレトルト食品を温めるのに使いました。クレンザーを使ってコーティングをし、取っ手の部分にはアルミホイルをまくことで、すす汚れを防ぐ対策をしました。アルファ米をお皿に盛り付け、レトルト食品を上にかけていただきました。カレーライスにしている子が多かったですね。

昼食が終わると、使ったなべをすすをとって洗い、返すときに四日市市少年自然の家の職員の方に点検してもらいました。しっかりと磨かないと合格がもらえません。合格をもらったグループは、「やったあ」と喜びを分かち合っていました。やり直しのグループは、どこがダメなのかを教えてもらって、磨き直して再度点検してもらいました。

<カヤック体験（3or4番目）>

午後からはカヤック体験をしました。濡れてもいいように服装を準備して、だいもん池へと向かいました。カヤックに乗る前に準備体操をし、ライフジャケットを身に付けました。乗船前に、カヤックから落ちてしまった時の注意を指導員の方から聞き、2人1組でカヤックに乗り込みました。指導員の方からは、右に曲がったり、左に曲がったりする方法や後ろ漕ぎについても教えてもらいました。パドルを上手に操作して、どんどんと前に進んでいるグループもありました。最後にはカヤックを使ってみんなで鬼ごっこをして楽しみました。天候も良く、暖かかったので、みんな楽しそうにパドルを漕いでいました。

<マイ箸作り（3or4番目）>

カヤック体験と並行して、別のグループはマイ箸作りを体験しました。木材を小刀で好みの細さになるまで削っていくのですが、小刀でひたすら削っていく作業なのでなかなか根気がいります。2本をまんべんなく削っていく必要があるので、バランスも大切です。時間が足りなくて、紙やすりで滑らかになるまで磨いたり、表面にワックスを塗ってからぶきをし、乾かすところまではできませんでしたが、目標とするところまで、しっかりとやりきりました。削ったおがくずの量が、みんなのがんばりを証明していました。

<退所式（5番目）>

退所式を始める前に、玄関付近で全員の記念写真を撮りました。退所式では、1日お世話になった四日市市少年自然の家の職員の方々にみなでお礼を言いました。代表の子からは、「なかまに向けて、『挑戦する心』『感動する心』『発見する心』の中から何か一つでもつかむことができましたか?』という問いかけがありました。

今年度は、自然教室がコロナ禍の影響で1日開催となりました。しかし、5年生は短縮された中でも、学校ではできない貴重な体験をすることができたと感じています。自然教室で大切な「挑戦する心」「感動する心」「発見する心」の3つに加え、『なかまを大切に作る心』を体験することができたのではないのでしょうか。お互いの絆を深めることにつながった充実した時間となりました。

6年生で調理実習を行いました。

新型コロナウイルス感染症の拡大も一旦収束に向かい、感染状況をふまえた上で、6年生では2年ぶりの調理実習を行いました。「野菜いためをつくろう」というテーマで、担当の先生から、野菜の切り方、いためる順序、包丁とコンロの安全な使い方、手洗い・消毒の衛生面、後片付けなどについて説明を受けた後、短時間の調理を意識して実習をしました。久しぶりの調理実習で、みんな楽しそうに手分けをして実習に臨んでいました。

できあがった野菜いためは、感染症対策を取り、調理を行った家庭室とは別の部屋で人数を少なくしておいしくいただきました。食べ終わった後は、みんなでしっかりと後片付けを行いました。（文責 北住 昌文）

